（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年４月 27 日

県立厚木高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①探究的な学びをとおした科学的リテラシーの育成、グローバル教育の研究、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業研究と進学実績を導き出せる教育課程の研究を行う。 ②主体的に学ぶ態度の育成をとおして生徒の一人ひとりのキャリア形成に必要な自己決定力を向上させる。	①SSH の取組の柱である課題研究の充実により、根拠に基づいて論理的に考え、判断し、自身の考えを的確に表現する力を培う。 ②授業の組織的な改善により、新学習指導要領が示す指導と評価の一体化を更に推進し、生徒が自身の能力の向上の見通しを持って主体的に学ぶことで生徒の学力及び進学実績の向上を図る。	①課題研究に係る評価方法を検討し改良することで、課題研究を通して身に付けさせたい資質・能力のより効果的な伸長を図る。 ②授業改善のテーマを「教科横断的な深い学びの実践」と定め、全ての教科指導を通じて、様々な情報を活用しながら課題の発見・解決や社会的価値を創造する力を育む。	①評価方法についての検討がなされたか。 ②７月、12 月の「生徒による授業評価」の質問項目３「生徒の主体的・対話的で深い学びを促す機会が設けられているか。」と質問項目７「既習事項と関連させ、教科横断的な学びができているか」についての肯定的な回答の割合。					
2	生徒指導・支援	①生徒が自らを律し、また、全体のために行動しようとする態度を育成する。 ②学業と課外活動等との両立を図り心身ともに健康でバランスの取れた学校生活に向けた組織的な支援体制を確立する。	①学校行事や部活動、委員会活動を通して、生徒の主体性、社会性、リーダーシップとフォロワーシップを育む。 ②個別の支援が必要な生徒の情報共有の機会を増やすとともに、生徒の心の悩みについて早い段階で対処できる体制を構築する。	①行事や部活動等を通して、目標や身に付けたいことについて、取組の前後で振り返る機会を複数回設け、生徒に自身の変容を確認させる。 ②個別支援フローチャートを踏まえ、今年度から毎週来校する SC、SSW のより良い活用を検討する。	①年度末の生徒の振り返りにおける、肯定的な回答の割合。 ②SC、SSW のより良い活用ができたか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（　月　日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①主体的な学びから進路決定に結びつける進路指導の実現と各種模擬試験等の分析結果を活用し、生徒が設定した進路の実現に向けて、最後まで諦めさせずに維持させ、高い進路実績を維持する。	①進路支援グループの主導により、３年間を見通したキャリア教育実践プログラムを全職員であらためて共有し、その実践による生徒の変容を検証する。 ①生徒に自身の進路目標と現状の確認を定期的に継続して行わせ、進路実現に向けた計画的な取組を促す。	①キャリア教育のプログラムを適切に用意し、生徒に目的を理解させて取り組ませ、実施後の振り返りにより、自身の変容を確認させる。 ①実力テスト等の前後で日頃の学習を振り返り、次の取組につなげる機会とする。また、キャリアパスポートの活用方法を見直し、効果的に活用する。	①生徒の自己評価による、自身の取組状況や成果についての肯定的な回答の割合。 ①国公立大学合格者が150名、難関国公立大学合格者が 20 名を超えたか。					
4	地域等との協働	①学校の教育活動を広く地域に公開・発信し、開かれた学校づくりを推進する。 ②地域や学校間と連携した教育活動を推進する。	①校内の教育活動についてこまめに記録を取り、適時に発信していく体制を構築する。 ②地域と連携した教育活動について、どのようなことができるか検討する。	①ホームページを隅々まで確認し、未更新部分をすべて更新する。その後も適時更新されていくように、各ページに関わる部署は速やかに HP 担当者へ情報提供する。 ②学校運営協議会の「生徒・地域部会」により検討する。	①学校行事、各部活の活動、SSH の活動などの発信状況。HP の更新状況。 ②活発な協議ができたか。新しい取組ができたか。					
5	学校管理 学校運営	①信頼にねざした学校づくりにむけ、事故防止の取組みを推進するとともに学校全体の企画調整機能を強化し、経営課題を横断的かつ組織的に検討し、教育活動の展開・拡充させる。 ②教職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスの調和を目指した働き方改革を推進する。	①企画会議において学校経営の視点で課題を見つけ、グループの枠を超えて協議をし、本校の目指す教育の効果的な実践につなげる。 ①創立 120 周年記念式典及びその他の記念事業を円滑に実施する。 ②業務の精選、見直しを継続して行っていく。	①企画会議を活用した不祥事防止会議を毎月行う。 ①企画会議で事故や不祥事の芽や学校の課題を洗い出し、改善・解決に向けた意見交換を積極的に行う。 ①創立 120 周年記念式典に向けて最終調整を綿密に行う。 ②企画会議でグループ業務の内容や位置付けについて見直しを続ける中で業務の軽減を図る。	①事故防止会議の実施回数と事故不祥事の回数。 ①学校経営に係るテーマについて協議がされたか。 ①120 周年記念事業が無事に実施できたか。 ②業務の軽減につながる見直しができたか。					